

鶴見大学

入試問題(縮刷版)

短期大学部

2021(令和3)年度

短期大学部

総合型選抜

課題作文

- 保 育 科 (1期・2期) 1
- 保 育 科 (3期・4期) 2
- 歯科衛生科 (1期・2期) 3

学校推薦型選抜 (一般公募推薦)

小論文

- 保 育 科 (1期・2期) 4
- 歯科衛生科 (1期・2期) 5

一般選抜 (個別選抜型)

新入生特待奨学生選抜試験

国 語

- 保育科・歯科衛生科 共通 6
- 解答例 8

2021（令和3）年度入学試験問題【課題作文】

課 題

総合型選抜1期
鶴見大学短期大学部 保育科

試験時間：60分間

字数：800字以内

1
最近の乳幼児に関する社会問題で特に関心のある事柄をあげ、それに関する自分の考えを述べなさい。

2021（令和3）年度入学試験問題【課題作文】

課 題

総合型選抜2期
鶴見大学短期大学部 保育科

試験時間：60分間

字数：800字以内

1
子どもの遊びに関することで、特に関心のある事例をあげ、それに関する自分の考えを述べなさい。

2021（令和3）年度入学試験問題【課題作文】

課 題

総合型選抜3期
鶴見大学短期大学部 保育科

試験時間：60分間

字数：800字以内

1
乳幼児の心身の健康に関する事で、特に関心のある事柄をあげ、それに関する自分の考えを述べなさい。

2021（令和3）年度入学試験問題【課題作文】

課 題

総合型選抜4期
鶴見大学短期大学部 保育科

試験時間：60分間

字数：800字以内

1
障がいのある子どもの保育に関する事で、特に関心のある事柄をあげ、それに関する自分の考えを述べなさい。

2021（令和3）年度入学試験問題【課題作文】

課 題

総合型選抜1期
鶴見大学短期大学部 歯科衛生科

試験時間：60分間

字数：600字以内

「超高齢社会における歯科衛生士の役割」について
600字以内で書きなさい。

1

2021（令和3）年度入学試験問題【課題作文】

課 題

総合型選抜2期
鶴見大学短期大学部 歯科衛生科

試験時間：60分間

字数：600字以内

「チーム医療の中での歯科衛生士の役割」について
600字以内で書きなさい。

1

2021（令和3）年度入学試験問題

小論文論題

学校推薦型選抜（一般公募推薦）1期
鶴見大学短期大学部 保育科

試験時間：60分間

字数：600字以内

1
あなたは、自己肯定感が高いと思いますか。それとも、低いと思いますか。どちらであるのかを答え、その理由も含めて600字以内で述べて下さい。

自己肯定感とは、「『優れた自分』を誇りに思うことではありません。『ありのままの自分』をこれでよいと思える気持ちです。」（水島広子著 『自己肯定感、持っていますか？』 大和出版、2018年）つまり、自分には良いところもあるが、欠点もたくさんあり、失敗もします。しかし、それでも自分には必要とされている価値や意味があるはずだと思える心の状態です。

2021（令和3）年度入学試験問題

小論文論題

学校推薦型選抜（一般公募推薦）2期
鶴見大学短期大学部 保育科

試験時間：60分間

字数：600字以内

1
子どもの主体性を育成する上で、あなたが子どもへの対応で気を付けることは何であると考えますか。あなたの考えを600字以内で書きなさい。この場合の主体性とは、「主体的に行動しようとする態度」の意味です。（『新明解国語辞典』 第七版、三省堂、2017年）

2021（令和3）年度入学試験問題

小論文論題

学校推薦型選抜（一般公募推薦）1期
鶴見大学短期大学部 歯科衛生科

試験時間：60分間

字数：600字以内

「歯科衛生士に求められる資質」について
600字以内で書きなさい。

1

2021（令和3）年度入学試験問題

小論文論題

学校推薦型選抜（一般公募推薦）2期
鶴見大学短期大学部 歯科衛生科

試験時間：60分間

字数：600字以内

「歯科衛生士の将来像」について
600字以内で書きなさい。

1

2021(令和3)年度入学試験問題

国語

〔一般選抜(個別選抜型)〕
〔新入生特待奨学生選抜試験〕
(2学科共通)

注意事項

1. 試験開始の指示があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子の問題部分は、全部で7ページあります。
3. 解答用紙の所定の欄に、志望学科名・受験番号・氏名を忘れずに記入すること。
4. 解答は、必ず解答用紙の指定された箇所に縦書きで記入すること。
5. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁、乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を高く挙げて、試験監督者に知らせること。
6. 試験時間は60分間です。
7. 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
8. 試験終了後、解答用紙は問題冊子の上に伏せて置くこと。
9. この問題冊子は持ち帰らないこと。

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えよ

まず、次のような問いを立ててみたい。「絶対的な確率」のない世界で、われわれはどうやって、「把握」の故事のように不安に怯えることなく、それなりに安心して生きていくのだろうか。われわれにとって「確かさ」が、絶対的なものでもなく、かつ無常でもいらねえものだとしたら、それはわれわれの生なのかでどのような仕方「行動」しているのだろうか。これらの問いを通して、「確かさ」を取り巻く「コンテクスト」に踏み入ってみよう。

最初に取り上げたのは、専門知とその「確実性」についてである。それを考えてみるべき。一見確実性が高いかに見える専門知が、より広いコンテクストに支えられており、そのコンテクストは、一見専門知よりも「不確実」であるかのように見える。「人間関係」の次元にあることがよくわかるのである。

「人間の信頼性は確保されているのか?」「原子力発電所の安全性は確保されたのか?」これらの問いのついでに、もう一つ問題提起したい。それは「われわれがこれに不安を感じているからである。2011年の震災に伴って福島原発事故が発生するまでは、2011年以前に多数の建築物の耐震強度検査が実施されるまでは、マンションの耐震性に疑問を感じる人はあつたが少なかったであろう。原子力発電所は十分に安全なのである」と、ほとんどの人が当然と思つていたのである。「確かなこと」という疑問をさかばないことについては、それが強かである、と主張し必要を感ぜられない。「確かなこと」といふ問いが「ア」語まったものになつてきたときには、われわれはもうすでに大きな不安の中にいるのである。従って、確かなことと不安とのせめぎあひが、この検査でも安全は確認でき

このマンションも危ないのでは? この検査でも安全は確認でき

きないのでは? 信頼や偽装を疑い始めると、証拠を示されても、証拠自体がまた疑いの対象になるから。疑念はどこまで膨らむ。極端な場合、それは「陰謀論」のようなものまで発展しかねないだろう。

「A」 無限なく疑が膨らむのは、しばしば、「一般」あるいは「素人」には自分で検証できない知識や技術に関するケースである。建築物の構造計算を自分で行うことができる人は稀である。原子力発電所の安全性となるか、一人ですべてを確認する事柄ではない。多数の専門家が複合的に組み合わさつて、はじめて検証が可能になる。

「素人」の手に負えないものではない。「一部の分野の専門家であつても、ほとんどの他の分野について素人に近い」「素人」にはわからないから、専門家」に任せると言われたとき、「専門家」の信頼性が問われる。専門家」自身が確かに信頼できるか、が問われるのである。耐震検査にしても、原発の安全性にしても、揺らいでいるのは当然の「素」自体に関する確実性より、「専門家」ないしその集団への信頼性であると言つてもよい。

「B」 われわれのまわりには、自分で検証できない専門知に依存するものがたくさんある。自分で検証できないものをすべて疑い始めたら、現代においては、ほとんど生活が成り立たなくなるほどである。自分の服用している薬が安全かどうか、いま進行しているトネオの天井が突然崩落するとはないか、乗っている電車が脱線することはないか、等々、疑う余地はいろいろある。いずれも、自分一人では検証できないか、またたいては相当の努力と時間と費用を要することばかりである。

さまざまなタイプの「専門知」は、それ自体としてみれば、高度に整備され、多くによつて検証された信頼や合理的な方法論を備えているだろう。しかし、当該の専門知が技術者や研究者に依頼を頼むものであるとしても、それにもとづいて語られたことを、すべての人が

3

自分で検証するわけではない。となると、当該の「専門知」の信頼性は、社会的には、どうしても「人の信頼性に依存することになる。どんなに優秀な専門家であっても、確実性を確保することには、疑わなければならない。専門知が、ある日突然揺らぐようになってしまったとき、先に述べたように、専門家集団への信頼が揺らぐ。そうなる。疑いはどこまでも膨らむ。同じ専門家集団が、いくらか新しいデータを出してきて、すべてが偽装や隠蔽として疑われるから、問題の解決にはならない。当の専門家集団に情報を正確に提供して、ほとんどの人はそれを検証することができないから、不正確なデータと別がつかなくなる。当の専門知の正確さは別の次元で、疑いがどんどん膨らんでいくようなモードには入り込んでいく。

「C」 われわれは、たとえ科学に対して不信感を抱いたとしても、行動のレベル、生活のレベルでは、依然としてその信頼をもつてづけているのである。それは、私がこの医学的治療の正当性や、検査

「D」 次のような方向に問いを進めることもできる。ある専門家集団が信頼を失つてしまったとする。人はそれに慣れたりあきらめたりし、科学そのものに對する不信感さえ口にするかもしれない。そこで病院に駆け込み、現代科学の粋を集めた検査機械の前に降り、現代医学にもとづく医師の治療を受けたら、何の疑念も抱かないのではなかろうか。科学は築き上げたので、まじない師のものに取代わつた、という人はまずいないだろう。

「E」 これも科学への信頼の根拠にあるだろう。一般の人々、そのことは理解している。だがほとんどの人はそれが実際にはできない。

「F」 これも科学への信頼の根拠にあるだろう。一般の人々、そのことは理解している。だがほとんどの人はそれが実際にはできない。

3

「A」 「ア」語ったものになつてきたときには、われわれはもうすでに大きな不安の中にいるのである。従って、確かなことと不安とのせめぎあひが、この検査でも安全は確認でき

「B」 われわれのまわりには、自分で検証できない専門知に依存するものがたくさんある。自分で検証できないものをすべて疑い始めたら、現代においては、ほとんど生活が成り立たなくなるほどである。自分の服用している薬が安全かどうか、いま進行しているトネオの天井が突然崩落するとはないか、乗っている電車が脱線することはないか、等々、疑う余地はいろいろある。いずれも、自分一人では検証できないか、またたいては相当の努力と時間と費用を要することばかりである。

「C」 われわれは、たとえ科学に対して不信感を抱いたとしても、行動のレベル、生活のレベルでは、依然としてその信頼をもつてづけているのである。それは、私がこの医学的治療の正当性や、検査

「D」 次のような方向に問いを進めることもできる。ある専門家集団が信頼を失つてしまったとする。人はそれに慣れたりあきらめたりし、科学そのものに對する不信感さえ口にするかもしれない。そこで病院に駆け込み、現代科学の粋を集めた検査機械の前に降り、現代医学にもとづく医師の治療を受けたら、何の疑念も抱かないのではなかろうか。科学は築き上げたので、まじない師のものに取代わつた、という人はまずいないだろう。

「E」 これも科学への信頼の根拠にあるだろう。一般の人々、そのことは理解している。だがほとんどの人はそれが実際にはできない。

「F」 これも科学への信頼の根拠にあるだろう。一般の人々、そのことは理解している。だがほとんどの人はそれが実際にはできない。

5 「専門知」の「不確か」さがあらたになつたから。

4 専門家が違つてきたから。

3 実際は偽装を隠蔽してゐたから。

2 偽装部が「確かめる」ことなく確かたと見なして生きた」の説明として適当なものを、次の中から適当な番号で記せ。

1 何の検証もなしに科学を信すること

2 科学の成果を検証することは無理だと諦めること

3 検証不能な事を、科学者への信頼によつて確かたとみなすこと

4 確かめるまでもない当然の事象として受け入れること

5 行動や生活の上で検証は必要ないと受け込むこと

問七 文中の空所Iに入る最も適当な語句を、次の中から適当な番号で記せ。

1 専門知を持たない一般人

2 見知らずの他人

3 専門家集団

4 圧倒的多数の人

5 直接触れあふ身近な他人

問八 傍線部d、人間関係の多面的なリソクの説明を、五〇字以内(句読点を含む)で記せ。

問九 次のうち本文の論旨に照らして言えることにはA、そうでないものにはBを、それぞれ記せ。

1 「確かた」は相対的なものだが、人間関係の深まりによつて絶対不変なものとなる。

2 「素人」にとつて「専門知」を信することとは、「専門家」を信することと同義である。

3 「専門家」が「確か」というのは、あくまで可能性にすぎず、現実にはありえない。

4 「科学的研究の確実性」以上に、人間存在の根柢にあるのは「人間

6 問の社会的基調」であつて、
7 「反面教師」に対しては信頼を保持して居られるのは、教師の愛情が普遍的なものだからである。

7 ンぽはどで生まれたのだろうか、と考えることはありません。まして田んぼを待たせ四五日過ぎたから、そろそろ赤とんぼが飛び始める頃だ、田んぼを待たせるともありません。近頃、東日本では赤とんぼ(秋)が激減しています。少なくなった」と気づく人もいますが、なぜそんなに少なくなったのだろうか」と考える人は、百姓にもあまりいません。

どうも近頃自然というのは、ことさらに意識して、移ろいの原因を突きとめようとするものでもありません。自然に、あるがまま夏の畑の百姓仕事は暑くて困ります。ところが田んぼでの仕事は涼しいのです。とくに稲の葉を揺らしてこちらに吹いてくる風に包まれると、ほんとうに身体の中を風が吹き抜けて行くような気がして、気持ちがいいものです。これは百姓なら実感として誰でも感じていたはずです。なぜ田んぼの風は涼しいのか、と問うことはありません。「田んぼには水が溜まつているからじゃないの」とは思つてしまふが、それはなぜ、水が溜まつていると涼しいのか」と問われると、「冷たい水のイメージがあるから、涼しい感じがする」と答える人が多いのですが、夏の田んぼが暑くて困つていて、水は見えない。田んぼと稲の気温を調査した研究によると、その差は平均すると2・5℃くらいだつたそうです。「ええ、そんなに違ひのつかないと思ひますが、なぜそんなに差が出るのか」と考えることはありません。

晴れた日の夏の夕暮れともならず、田んぼの稲の葉の葉先は、水滴が現れます。それが夕日に反射してきらきら輝いている風景は、**I**「空を眺めているのかと錯覚するくらいで、見とれてしまふます。しかし、草間にはさらに多量の水分が葉先から蒸散するため、夕方に空気が水蒸気を含んでいて、人間の目には見えませんが、夕方には空気が水分を抱え込むことができなくなり、水蒸気として葉先に溜まつてしまふから見えるのです。

てしまふから見えるのです。

しかし、私たちが考えません。こうした科学的な説明は、涼しい風に「気持ちいい」と感じる原因を「蒸散による湿度」で説明するのではなく、自然は、自然のままに感じさせてくれるとすくなく忘れていくものです。それがいいのではないのでしょうか。

(学報『日本人にとつて自然とはなににか』筑摩書房、刊)による

注 筆者は、注に「百姓」という言葉は決して差別用語ではなく、江戸時代から誇り高い呼称でした。この本では、この伝統を大切にしたい」と記している。

問一 傍線部1-5の漢字の読みをひらがなで記せ。

問二 文中の空所A・B・C・Eに入る適当な語句を、それぞれ次の中から適当な番号で記せ。

1 このたび 2 ところ

3 したがって 4 しかし

5 したがって 6 しかし

問三 文中の空所D・F・Gに入る適当な語句を、次の中から適当な番号で記せ。

1 もし 2 果たして 3 まるで

4 まさか 5 なぜ 6 むしろ

問四 文中の空所Hに入る最も適当な語句を、次の中から適当な番号で記せ。

6 道歩きしているときに、ふと道端の小さな花に目がとまるのがあります。先日、目がとまった花は、真冬なのに咲き始めている仏の座の紅色の花と、はこべの白い花でした。私は田舎で百姓をしているので、ほとんどが見慣れた草で、ありふれた草です。それでも、時々「それだ」と感じる時があります。しかし、そこ立ち止まることとなく、そのまま通り過ぎていきます。

A 気分転換つと、もう先ほど目にとまった花のことなどすっかり忘れていきます。 B 田んぼへの道を歩くのは楽しい。野の花に目がとまるから、などと思ふこともなく、また静かに歩すこともありませぬ。

C あらためてありかえると、ふと目を知らぬ花は、全部名前を知っている草ばかりです。目新しい名前を知らない草の前を歩くと、さういふ感じがします。

D 立ち止まってよく見るはずですが、なぜ、ここに生えているのかと問ひたい感じがします。

E いとも通るこの田舎道は F 自然」なのだろうか。村中にも田んぼを耕す人がいなくなつて、放棄された畑が増えてきました。その横を通るときは「いやだな」と思ひます。無意味に目を背けてしまふ。しかし、その田んぼが耕された場所にも、草は生えていて、よく見ると道端と同じ草も生えていて、咲いています。しかし、その数の多い花には私をまなざしは向けられません。まなざしが向けられないところは自然ではない、ということでしょうか。

若い頃には、都会の中にもやんとした自然はないと思つていました。たとえは悪いですが、田舎の数少ない、それも我々も自然にかないだらう。正直思つていました。ところが友人から「都会にも自然はあります。街路樹の根元に咲く野の花はいいですよ」と言われて、驚きました。それから、都で行つて、街の中を歩くと、道端の草に目をやるようになりました。田舎と同じ草も、いっぱい生え

です。ですから、都会に住んでいる人も散歩のときや、通学・通勤の途中で、ふと道端の野の花に**A**の「それだ」と思ひ、そして名前を覚えていくのでしようか。もつと深い理由があるのでしょうか。

村に住んでいると、ある日突然に、蛙の鳴き声が村中に響き渡ります。六月上旬の夜のことです。百姓でない人は「夏が来たな」と感じるのでしよう。私は「誰か田んぼを始めたか」と思ひます。蛙のほとんども田んぼで産卵します。鳴いているのは雄の蛙で、求愛の声なのです。代わりの田んぼが産卵する状態になるまで鳴かずに待つています。とがなくなり、稲の穂が一面に生え、おやお五つ子が生まれ育つための条件が整うからです。

しかし私たちがはたして田んぼが引き金になつて、蛙が鳴き始めるんだ」と、**B**「関係」を認識することはなく、蛙が鳴き始める毎年くり返される「自然現象」であつて、いよいよ上木格的な夏が来た」と蛙の鳴く声といふ自然に季節を感じてはいます。

赤とんぼが急に飛び始めるのは、田んぼで四五日過ぎを境です。日本で生れる赤とんぼのほとんどは田んぼで生まれます。しかし、赤とんぼが群れ飛ぶ夏空や秋空は、自然現象であつて、この赤と

1 因果 2 相関 3 上下 4 二角 5 主従

6 因果

7 因果

8 因果

9 因果

10 因果

11 因果

12 因果

13 因果

14 因果

15 因果

16 因果

17 因果

18 因果

19 因果

20 因果

21 因果

22 因果

23 因果

24 因果

25 因果

26 因果

27 因果

28 因果

29 因果

30 因果

31 因果

32 因果

33 因果

34 因果

35 因果

36 因果

37 因果

38 因果

39 因果

40 因果

41 因果

42 因果

43 因果

44 因果

45 因果

46 因果

47 因果

48 因果

49 因果

50 因果

51 因果

52 因果

53 因果

54 因果

55 因果

56 因果

57 因果

58 因果

59 因果

60 因果

61 因果

62 因果

63 因果

64 因果

65 因果

66 因果

67 因果

68 因果

69 因果

70 因果

71 因果

72 因果

73 因果

74 因果

75 因果

76 因果

77 因果

78 因果

79 因果

80 因果

81 因果

82 因果

83 因果

84 因果

85 因果

86 因果

87 因果

88 因果

89 因果

90 因果

91 因果

92 因果

93 因果

94 因果

95 因果

96 因果

97 因果

98 因果

99 因果

100 因果

解答用紙

国語

一

問一（AかBで解答）

1	B
2	B
3	A
4	B
5	B
6	A

問二

1	いんべい
2	いきどおつ
3	ぎんみ
4	つながり

問三

A	3
B	6
C	2
D	1
E	5

問四

切羽	2
問五	3
問六	5
問七	5

問八

一	他人の評判
二	他人の範囲
三	他人の間に
四	他人の間に
五	他人の間に
六	他人の間に
七	他人の間に
八	他人の間に
九	他人の間に
十	他人の間に

問九（AかBで解答）

1	B
2	A
3	B
4	A
5	B
6	B

二

問一

1	いなか
2	がいろじゅ
3	きゆうあい
4	さつかく
5	ぶすい

問二

A	3
B	4
C	5
E	2

問三

D	6
F	2
G	5
I	3

問四

6	6
---	---

問五

ア	6
イ	5
ウ	4

問六

貧相	な
自然	な

問七

離れ	る	と	す	ぐ	に	忘	れ	て	い	く	も	の
自然	な	ま	ま	に	感	じ	て	身	を	任	せ	て

問八

日常

問九

水	滴	が	昼	間	は	蒸	発	し	て	、	風	を	冷	や
し	て	い	る		から									

問十（AかBで解答）

1	A
2	B
3	A
4	B
5	B